

自己紹介

加藤哲哉

- 愛知県名古屋市出身
- 静岡大学理学部生物学科を経て、北海道大学大学院理学研究科生物科学専攻に進学、2001年に博士（理学）の学位取得。専門はゴカイの分類
- 趣味：バイク、洋ランの栽培



志望動機

- 2003年4月、京都大学瀬戸臨海実験所にて研究員として、白山義久所長(当時)の国際研究プロジェクトに参加。
- 2005年に水族館担当の技術職員採用の情報を白山所長から伺う。水族館業務と研究の補助、また自身の研究もしやすい環境に魅力を感じる。
- 2006年4月から技術職員として採用。水族館飼育展示担当



Paranaitis misakiensis Kato & Pleijel, 2003

主な業務内容

- ・水族館の管理

瀬戸臨海実験所では水族館（京都大学白浜水族館）を併設し、実験所利用の研究者・学生だけでなく、一般に公開しており年間9万人以上が来館します。この水族館の生き物と飼育設備を日々管理しています。

- ・実験所管理

実験所においては、現在6名の教員と1名の研究員・学生が教育・研究活動を行っていますので、その補助と施設管理も行っています。

- ・その他

研究者の依頼に応じた実験機器の工作、ヘビやスズメバチの対応、所内の樹木の整備、テレビ取材の対応なども行っています。



水槽大掃除のため生き物を回収



1963年から続いているウニの調査@ 畠島

この職場でよかったこと

- ・ 生きた生物の管理は大変である反面、日々発見があり楽しいこともたくさんあります。
- ・ 磯採集、潜水採集、釣り採集など、業務として野外で生き物の採集の機会があり、自然とその変化を日々体感できます。
- ・ 水槽の補修・新造、配管の変更補修など工作の機会が多く、やる気次第で機械整備、木工、金属加工など各種技術力UP！
- ・ 全国の臨海・臨湖施設持ち回りで現地での技術職員研修を行っており、各施設を訪れ”五”感で学ぶ機会があります。
- ・ 水族館のバックヤードを歩き回らなければならないので、仕事だけで1日1万歩以上になる、健康にいい職場です。
- ・ 学内でも業務が特殊です。
- ・ 海だけでなく、敷地内も自然豊かです。



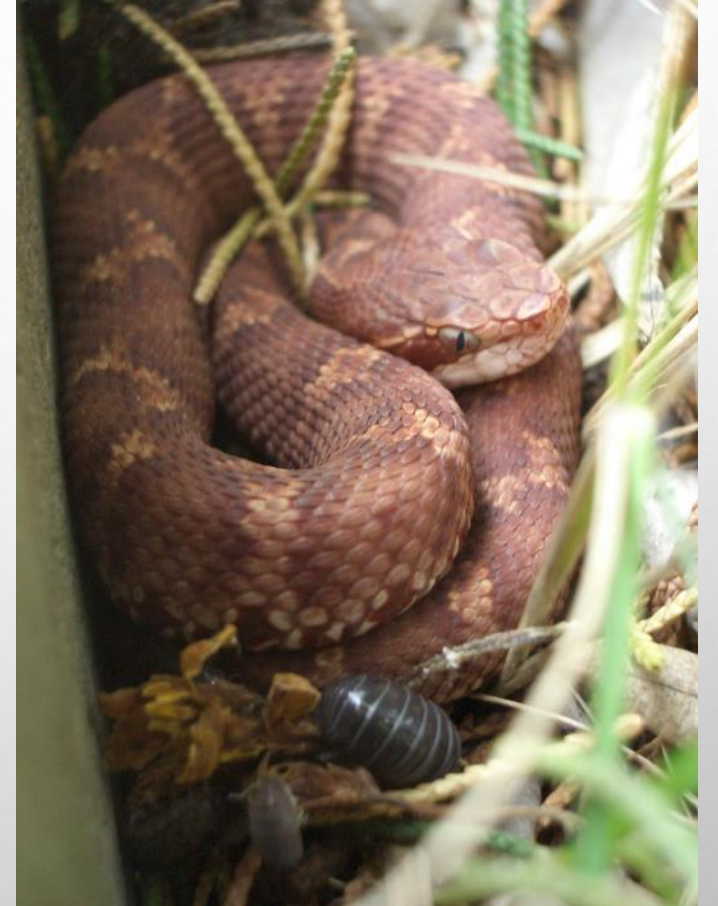
水槽内で泳いでいたチグサミズヒキ(ミズヒキゴカイ科)繁殖に伴う行動とみられる。



所内でたまに見かけるミドリカミキリ

この職場の残念なこと

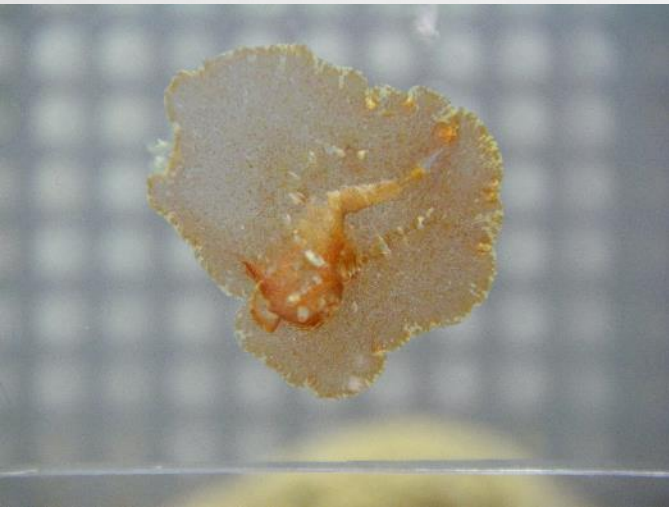
- ・水族館が仕事になるので、休日によその水族館に遊びに行っても仕事目線が入って気楽に楽しめなくなるかも。反面、管理者目線で見た、別の楽しみ方ができます。
- ・落雷による停電があると機械の再起動などの対応が必要になるので、雷が鳴ると落ち着かなくなります。
- ・自然が多い職場なので、こまった虫も多いです。蚊は2月末から12月末までおり、ムカデが多く運が悪いと噛まれます。



たまにいるマムシ

さいごに

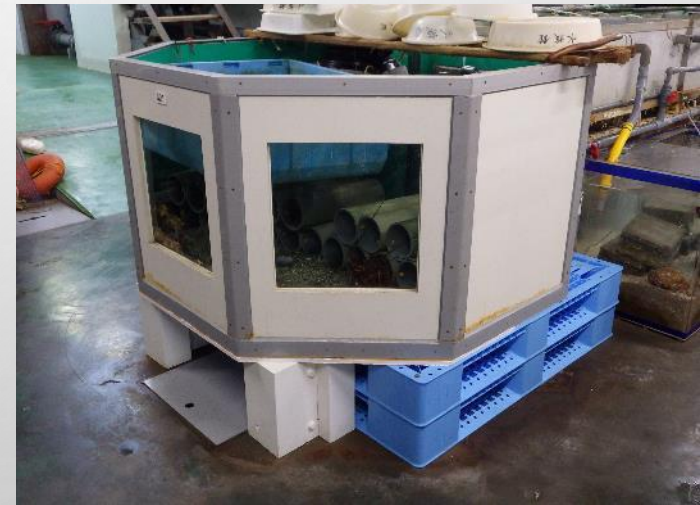
当館規模の水族館では飼育担当が5~6名いるのが普通ですが、当館の定員は3名です（泣）。ぎりぎりで乗り切っているところもありますが、やる気があれば自由にできる部分も多いと思います。



ベニクラゲムシ 透明塩ビ板に張り付けて展示できるようになった



クラゲを飼育できる水槽をアクリルで自作
クラゲの長期展示が可能になった



予備水槽の鉄の台が錆びて変形したので、フォークリフト用パレットを利用し自作修理した